

夢を実現する第一歩のために **2017年5月号**

ミツヒロニュース



コロンビア大学ビジネススクールの
ミーナ・アイエンガー 教授著「選択の
科学」で、ジャムの試食 ブースで、
ジャムを24種類並べた時と6種類
並べた時では、6種類の時の方が
購入した客が、6倍以上多かった。
という結果でした。人は選択肢が多いほど
迷うことが多くなります。数多くの商品を
作るより、一つに絞って、より良いモノを提供
することも必要ではないでしょうか。
光廣 昌史

今月のトピックス

- ◇「大切な会社の
将来のために」
～円滑な事業の承継を～
- ◇「褒めて動かす」
- ◇今月のお勧めセミナー
第1回 実務講座
経理基礎編
「経理実務の基礎」

- ◇あとがき
「花めぐり」



大切な会社の将来のために～円滑な事業の承継を～

1. 背景

団塊世代経営者が引退する時期を迎え、後継者問題の対策をせずに放置していると、いざ事業承継という時に、相続を巡って揉め事が起こったり、後継者が経営ノウハウを知らない、取引先や従業員の信頼を得られない、技術・ノウハウの喪失、といった問題が生じたり、廃業に追い込まれる場合もあります。

先月、(株)帝国データバンクが発表した「広島県 2016 年度 企業の休廃業・解散動向調査」によると、広島県の 2016 年度の「休廃業・解散件数」は(729 件)で、倒産件数(128 件)の「5.7 倍」にもなり、前年度に比べ「休廃業」(461 件)が 4.1%増加、「解散」(268 件)も 17.0%増加しています。この内、経営者の年齢が判明している 610 件中、「70 歳以上」が 242 件(39.7%)、「60 代」が 207 件(33.9%)となっており、経営者の高齢化・後継者不在が事業停止の背景にあることが推測されます。

後継者の育成も考えると、事業承継の準備には 5 年～10 年ほどかかります。中小企業庁も「60 歳になったら、事業承継に向けた準備を始めましょう」と、訴えています。会社の大きな転機となる事業承継は、早めの準備、計画的な取り組みが肝要です。

2. 事業承継を進める手順

事業承継を円滑に進めるためには、事業承継に向けた**準備が極めて重要**です。

事業承継に向けたステップ

事業承継に向けた準備の必要性をまず認識

(次頁へ続く)

ミツヒロニュースの発送等に関するお問い合わせは、総合企画部 下田・和田まで

<http://www.office-m.co.jp/> Tel 082-294-5000 Fax 082-294-5007 mail to : info@office-m.co.jp

事業承継計画の立案

現状の把握

- ①会社の現状（ヒト・モノ・カネ）
- ②経営者自身の資産等の現状
- ③後継者候補のリストアップ

承継の方法・後継者の確定

事業承継計画の作成

中長期の経営計画に、事業承継の時期、具体的な対策を盛り込んだもの

具体的対策の実行

親族内承継

1.関係者の理解

- ①事業承継計画の公表
- ②経営体制の整備

2.後継者教育

- ①社内での教育
- ②社外教育・セミナー

3.株式・財産の分配

- ①株式保有状況の把握
- ②財産分配方針の決定
- ③生前贈与の検討
- ④遺言の活用
- ⑤会社法の活用
- ⑥その他手法の検討

外部から雇い入れ従業員等への承継

1.関係者の理解

- ①事業承継計画の公表
- ②現経営者の親族の理解
- ③経営体制の整備

2.後継者教育

- ①社内での教育
- ②社外教育・セミナー

3.株式・財産の分配

- ①後継者への経営権集中
- ②種類株式の活用
- ③M B O の検討

4.個人保証・担保の処理

M & A

1.M & Aに対する理解

2.仲介機関への相談

3.会社売却価格の算定と会社の実力の磨き上げ

4.M & Aの実行

5.ポストM & A

3. 経営状況、経営課題等の把握

事業承継計画を立案するにあたっては、まず最初に会社をとりまく各状況を正確に把握することが必要です。

(1)会社の状況

- ①会社の資産・負債の状況
- ②損益、キャッシュフロー等の現状と将来見込
- ③会社の競争力の現状と将来見込
- ④従業員の数、年齢等の現状

(3)後継者候補の状況

- ①親族内に後継者候補がいるか
- ②社内や取引先に後継者候補がいるか
- ③後継者候補の能力・適性はどうか
- ④後継者候補の年齢・経歴・会社経営に対する意欲はどうか

(2)経営者の状況

- ①保有自社株式の現状
- ②経営者名義の土地・建物の現状
- ③経営者の負債・個人保証の現状

(4)相続時に予想される状況

- ①法定相続人及び相互の人間関係・株式保有状況の確認
- ②相続財産の特定・相続税額の試算・納税方法の検討
- ③従業員、取引先等の反応

4. 事業承継計画の作成

事業承継計画とは、**中長期の経営計画**に、**事業承継の時期、具体的な対策**を盛り込んだものです。具体的には、

①事業承継の概要 後継者の確定、承継方法、承継時期 等

②事業の中長期目標 . . . 経営理念、事業の方向性、将来の数値目標 等

③事業承継を円滑に行うための対策・実施時期

. . . 関係者の理解、後継者教育、株式・財産の配分 等

(次頁へ続く)

5. 社長、事業承継をどのように考えていますか？

1) 「事業承継」は、**準備に長い期間が必要**です。

事業承継は、事前の準備が大切であり、それを実行するには長い時間を必要とします。

2) 「事業承継」は、**知識ではなく、覚悟**です。

社長に覚悟がなければスムーズに進みません。

後継者にも覚悟がなければ、本当の引継ぎはできません。

《社長》

- ・あなたの**今後の人生は？**
- ・あなたの**家族の生活は？**
- ・あなたの**事業は？**



まだ先のこと
面倒くさい
とても難しい
と考えていませんか？

3) 「事業承継」には、**さまざまな配慮が必要**です。

《社長》

- ①**後継者は決まっていますか？**
- ②**家族に配慮した遺言書を作っていますか？**
- ③**財産の整理はちゃんとできていますか？**
- ④**関係者の理解は得ていますか？**



6. 後継者にとって必要なもの

後継者は確実に、これまで築き上げた**信頼**と**実績**を引き継ぐことが出来ますし、様々な**人脉**を構築活用することが出来るなど、**後継者としてのメリット**は多く有ります。

だからといって、後継者は、ただ現経営者から後を引継ぐだけと安易に考えていませんか。

今は、現経営者がいるから甘えられるかもしれません、いずれは自らが中心となって会社を運営することになります。先頭に立って従業員を守っていかなければなりません。**相当の覚悟が必要**となります。無理だと思えばやめる覚悟も必要です。引継ぐ覚悟と心構えをしっかり備えてください。

《後継者》

- ・後を継ぐという選択肢以外のことも考えましたか？
- ・後を継いだ時の**事業方針が明確ですか？**
- ・後を継ぐという選択が**自らが決めたことと決意、覚悟をしましたか？**



《後継者》

- ①**熱意と感謝の心を持っていますか？**
- ②**後継者としての適性はありますか？**



7. 会社の10年後を一緒に考えてくれる人はいますか？

弊社では、後継者の育成とスムーズな事業承継をサポートできればと考え、**後継者育成講座「後継者の羅針盤」**を開催しています。この講座は、経営の基本と本質を実践的に学ぶ後継者育成の場です。

いずれ経営者となる大切な準備期間にこそ重要な課題と向き合ううちに、経営者としての自覚と責任感が生まれます。また、ここで学んだことを実務に活かすことで、会社にも好影響をもたらすこと思います。詳細については、パンフレットを用意していますので、お気軽にお問い合わせください。

褒めて動かす

社員のやる気を高めるには「良い点を褒めるのが効果的」であると言われています。しかし、褒め方によっては、かえって逆効果となる場合もあり、注意が必要です。

◆失敗する褒め方/成功する褒め方

失敗する典型は「褒めている事柄が具体的でなく、抽象的で曖昧である」場合で、褒められている側から「口先だけだ。褒められた気がしない」、最悪の場合「上司の人気とりなど、何か裏があるのでないか」と受け取られることがあります。相手の心を動かす内発的動機付けにはつながりません。

これとは対照的に、成功するケースの典型は「褒めている具体的な行動が明確に指摘され、それがどのように役立ったのか表現されて、感謝やねぎらいの言葉をかけられる」と言った場合で、相手の感動を呼び、内発的、積極的な行動を引き出すことに繋がります。

◆制度的に褒める効果

経営ビジョンや、それに基づく行動指針が示されている場合、それが業務推進のすべての場面で実践されてこそ、ビジョンや行動指針の浸透につながりますから、全社員を対象として、制度的に褒めることが重要になります。

具体的には、社員一人ひとりや、チームを評価の対象として、評価基準・評価シートを準備し、全管理者による評価と推薦、トップによる評価決定、全社員が集合する場における表彰を行なうことになります。

表彰状には、前記の成功ケースの通り、「褒める具体的行動事実、それが役立った理由が表現され、その貢献に感謝する言葉で結ばれる」ことが適切と言えます。

このような褒め方は、経営ビジョンの実現、そのための行動指針の全社員への浸透への力となります。

◆経営者・管理者の留意点

上記のような意味で経営者・管理者は“褒め上手”になりたいものです。

褒めることの本質は“働きかけて人を動かす”ことにありますから、経営者・管理者は、目標管理制度の運用など、日常の業務遂行プロセスで、褒めることをマネジメントの一環として実践すべきです。

目標設定、達成プロセスで、個人やチームの積極的、創造的行動に着目して、顕彰の対象とすることをお勧めします。

参考文献： ■中小企業庁「事業承継ガイドライン」「パンフレット」

 **今月のお勧めセミナー**
第1回 実務講座
経理基礎編 「経理実務の基礎」

当講座は、従来の経理実務の基礎から、経理実務の集大成というべき決算書のしくみまでを理解して頂ける内容で構成し、全5回シリーズで開催します。新任経理担当の方はもちろんのこと、経理業務を再確認されたい方など、皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

(開催日 5月17日㈬)セミナー概要は、ピンクの案内チラシをご覧ください。)

あとがき

下田です。今年のお花見は、広島造幣局が開催する「花のまわりみち」へ行きました。合計61品種219本もの八重桜が咲いていて、初めて見る桜が沢山有り楽しく鑑賞しました。常連の方によると、夜桜のライトアップも有るので、日没前頃から行くのがオススメとのことでした。桜の季節は終わり、今は菖蒲・藤・サツキなどが見頃を迎えてます。外出するにも良い季節なので、花めぐりをして、自然に親しみたいと思います。



【発行】 株式会社オフィスミツヒロ／光廣税務会計事務所 代表取締役・税理士 光廣 昌史

